

1 単元 登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう (教材「まいごのかぎ」光村3年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第2学年の「そうぞうしたことを、音読げきであらわそう」の学習で、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読むことができるようになってきている。また、第3学年の「読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう」の学習で、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に想像したことを進んで伝え合おうとする態度を身に付けている。さらに、これらの学習を通して、身近なことを表す語句を増やし、話や文章の中で使うことができるようになってきている。

そこで、本単元では登場人物の行動や会話、気持ちを表す叙述に着目して、場面同士を比較したり複数の叙述を関係付けたりしながら読み進める活動を通して、登場人物の気持ちや性格を表す語句についての理解を深めようとするものである。また、登場人物の気持ちや性格について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しながら読む能力や、物語の出来事や登場人物についての感想を伝え合おうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう(教材「まいごのかぎ)」を設定した。

この学習は、特別な言葉に着目して場面の様子を比べながら読み、読んだ感想を書いて伝え合う第4学年の「場面の様子をくらべて読み、感想を書こう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「まいごのかぎ」は、主人公りいこが繰り返される不思議な出来事を通して、自身を肯定的に捉えられるようになる姿を描いた物語である。他者との関係の中で自分自身について見つめ始めるこの期の子どもたちに適した教材である。また、物語の組み立てが起承転結で構成されており、りいこの気持ちの変化や性格について、場面と場面を比較したり複数の叙述を関係付けたりしながら読む能力を高めることができる教材である。

そこで、本単元では、りいこの気持ちの変化や性格を捉えさせるために、不思議な出来事が起こったときのりいこの行動や会話、気持ちが表れている叙述に着目させながら読み進めさせる。また、自分の好きなところを中心に感想を発表することを単元の言語活動として設定する。その上で、読んで感じたことを発表するために、物語をどのように読めばよいかという課題意識をもたせ、必要感をもって教材文を読ませることが大切である。

具体的には、まず、「まいごのかぎ」を読んだ感想文を試し作りして交流させ、成果と課題を整理させる。そして、物語の読み方についての課題意識をもたせる。

次に、「まいごのかぎ」を読んで、りいこの行動や会話、気持ちを表す叙述に着目しながら、りいこの気持ちの変化や性格について読み取らせる。その際、自分に同じような出来事が起こったらどうするだろうという視点で、りいこの行動や気持ちに寄り添い、感じたことを発表させる。

さらに、試し作りの感想と見直しの感想を比較させたり、互いの感想を交流させたりして、自分の学習の成果に気付かせる。また、本単元で身に付けた資質・能力が今後の学習や生活でどのように生かせるか話し合わせる。

これらの学習を通して、気持ちや性格を表す語句を増やし、話や文章の中で使えるようにするとともに、言葉同士の関係性を問い直して自分の思いや考えを深める力を高めていく。また、言葉がもつよさを認識しながら思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付けることにつながるようにする。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが試行の感想文から課題を見だし、登場人物の気持ちの変化や性格を具体的に想像できるように、学習内容設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えます。

ア 本単元の学習活動に対する意欲を喚起させるために、まず、「まいごのかぎ」を読んで感想文を書く試みの活動を設定する。次に、書いた感想文を互いに交流させる活動を設定し、「感想文を書くためには、どのように読めばよいのだろうか」という課題を設定する。

イ りいこの気持ちの変化や性格を具体的に想像できるようにするために、りいこの行動や会話、気持ちを表す叙述に着目させる。また、場面同士を比較させてりいこの自分自身の行動に対する考え方の違いについて気付かせたり、気持ちの変化と性格とを関係付けて捉えさせたりする。

ウ 自分の学習を振り返らせ、今後の読みへとつなげるために、「まいごのかぎ」の見直しの感想文を書き、試し作りの文章と比較させ、変容やその理由に気付かせたり、自分が選んだ物語の感想文を書かせ友達の記事と比較させたりして、互いの感じ方の違いに気付かせるとともに、行動や会話、気持ちを表す叙述に着目しながら読むことのよさを実感させる。自分の考えを書くために大切なことを振り返らせたり、感想文を通して互いの解釈を交流したことを伝え合わせたりする。

3 目標

- (1) 登場人物の気持ちや性格を表す語句を増やし、それらを感想文の中で使うことができる。
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けたり複数の叙述を関係付けたりして、具体的に想像することができる。
- (3) 感想文を書くために、不思議な出来事が起こったり登場人物の気持ちが変わる物語を粘り強く読むことができる。

4 指導計画 (全8時間)

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	どの物語の感想を書こうかな。	1・2 教材との出会い・試し作り (1) 教材との出会い ・物語の内容と構造の把握 (2) 試行・課題解決の見通し ・「まいごのかぎ」の感想文を書く(試行) ・単元の学習課題, 学習計画の設定 不思議な出来事が起こる物語の感想を書くには、どのように読めばよいのだろうか。	○ 本単元の学習活動に対する意欲を高めたり, 学び合いを通して感想に書き表す内容を深めたりするために, 並行読書するための物語を提示する。 ○ 単元や教材への課題意識を高めさせるために, 「まいごのかぎ」の感想を書く試し作りをし, 交流させ, よりよく感想を書くための物語の読み方についての課題を明確にさせる。 ○ りいこの気持ちの変化や性格を具体的に想像させるために, 不思議な出来事が起きたときのりいこの行動や会話, 気持ちを表す表現に着目させ, 場面と場面を比較させたり複数の叙述を結び付けたりしながら読み進めさせる。
	不思議な出来事が起こる物語の感想文を書くためには, どのようなところに気を付けて読めばよいのだろうか。		
しらべる・ふかめる④	人物の行動や会話, 気持ちを表す言葉に着目して, 登場人物の性格を考えるとよさそうだな。	2～5 限定された場面での試行錯誤 (本時) ・教材文の読み取り 第一場面 うさぎに悪いことしたなあ → 困っているに違いない 【性格】 優しく, 誰かの役に立つことを望む性格 第二・三・四場面 さくらの木 ベンチ あじのひらき 【気持ち】 よけいなことばかりをしてしまおう自分 → 悲しくなる 【考え方】 よけいなこと 第五場面【本時】 【考え方】 よけいなことではなかった 【気持ち】 うれしくなる／喜び／自己を肯定する気持ち 【考え方】 みんなの役に立つことだった	○ りいこの気持ちの変化やその理由について, 一人一人の感じ方や考え方の違いに気付かせるために, お互いに考えたことやその根拠について比較し, 共通点や差異点を明らかにさせる。 ○ 何が分かったかだけでなく, どのようにして分かったかまでを捉えさせ, 次の学びに生かせるようにするために, 板書やノートを基にししながら, 活用した視点や思考方法を中心に自らの学びの道筋を振り返らせる。 ○ 今後の読みへとつなげるために, 並行読書した物語の感想文を書かせ, 試し作りの文章と比較したり, 他者と交流させたりして, 人物の行動や会話, 気持ちを表す言葉に着目して, 気持ちの変化や性格を捉えながら読むことのよさを実感できるようにする。
	場面同士を比較したり, 複数の叙述を関係付けたりして, 考え方の変化や気持ちの変化を捉えとよい。		
ふりかえる①	最初に書いた感想文と比べて, 登場人物の気持ちの変化について, 詳しく掛けたよ。	6 試行(試し作り)の見直し ・試行と見直しの感想文の変容を確かめる。 7 広い場面での試行錯誤 「自分が読んだ物語について, 学んだことを基に読み直し, 感想文を書こう。」 ・自分が選んだ物語を読み直し。 ・視点を明確にし, 感想文を書く。 感想を書くには, 人物の行動や会話, 気持ちを表す言葉に着目して, 気持ちの変化や性格を捉えながら読むとよい。	
	学んだことを生かして, 自分が選んだ物語を読み直し, 感想文を書きたいな。		
いかす①	人物の行動や会話, 気持ちを表す言葉に着目して, 気持ちの変化や性格を捉えながら他の物語も読んでみたいな。	8 活用場面の想起 「学んだことをどのように生かせるかな。」 ・感想文の交流と自己・相互評価。 ・他の物語文を読む。	

5 本時(5/8)

(1) 目標

りいこの行動や会話、気持ちを表す叙述に着目し、りいこの気持ちの変化の理由について粘り強く話し合う活動を通して、場面同士を比較したり、りいこの性格と考え方の変化を関係付けたりして、りいこが自分自身の行動を肯定的に考え直していることに気づき、読み取ったりりいこの気持ちの変化の理由をふまえて感想を書くことができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>【これまでの挿絵】 ← → 【第五場面最後の挿絵】</p> <p>りいこの表情が描かれていない</p> <p>りいこの表情についての話し合い</p> <p>共通点：りいこの気持ちは変化している 差異点：気持ちの変化の理由</p> <p>なぜ、りいこの気持ちは変化したのだろうか。</p>	(分) ↑ 5	<ul style="list-style-type: none"> りいこの気持ちの変化に対する学習課題を設定させるために、まず、最後の挿絵にりいこの表情が描かれていないことに気付かせ、「どのような表情をしているのだろうか。」と問う。次に、互いの考えを比較させ、「りいこの気持ちが変わっている」という共通認識や、変化の理由を多様に捉えているということに気付かせ、課題を焦点化する。
しらべる・ふかめる	<p>2 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>3 りいこの気持ちの変化の理由について話し合う。</p> <p>第二～四場面 第五場面</p> <p>やっぱりよけいなことばかりしてしまう。/悲しくなりました。【気持ちを表す叙述】 がっせう/ダンス【バスの様子】 「みんなも、すきに走ってみたいかったんだね。」【会話】</p> <p>自分の行動に対する考え方の違い</p> <p>考え方を変えたことが気持ちの変化の理由</p> <p>第一場面 第一場面</p> <p>うさぎに悪いことしたなあ。/落とした人が、きつとこまっているにちがいない。【気持ちを表す叙述】 うさぎをけしました。【行動】 /うさぎに悪いことしたなあ。【気持ちを表す叙述】</p> <p>優しく、誰かの役に立つことを望む性格 「よけいなこと」ではなかったという考え方の変化</p> <p>みんなの願いを叶えられた喜び うさぎに対する行動と気持ちの違い</p> <p>「よけいなこと」ではなかったという考え方の変化 第五場面</p> <p>あのさくらの木も/ベンチも/あじだつて～【気持ちを表す叙述】 あのうさぎが、うれしそうにこちらに手をふっているのを。【うさぎの様子】/りいこもうれしくなって、大きく手をふり返りました。【行動】</p> <p>「よけいなこと」ではなくて、みんなの願いを叶えられたのだと、自分の行動について前向きに考え直したから、気持ちが変わったんだね。</p>	↓ 25	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを明確にさせるために、りいこ気持ちの変化の理由についての最初の考えを交流する。その際に、りいこの行動や会話、気持ちを表す叙述等の視点、場面同士を比較する等の思考方法を焦点化していく。 りいこが自分の行動を「よけいなこと」ではなく、肯定的に考え直していることに気付かせるために、「最後の挿絵でりいこは、バスやうさぎに何と言っているのだろうか。」と問い、バスやうさぎの様子、りいこの会話に着目させ、これまでの場面と第五場面を比較して考えさせる。 気持ちの変化の理由について、第一場面の読み取りで捉えた性格を関係付けて考えさせるために、「変わっていないことは何だろうか。」と問い、「優しく、誰かの役に立つことを望む」というりいこの性格を想起させ、りいこがさくらの木・ベンチ・あじのひもの・バス・うさぎの願いを叶えられた喜びを感じていることに気付かせる。
ふりかえる・いかす	<p>4 学習のまとめを行う。</p> <p>自分の行動が「よけいなこと」ではなかったと考え直すことができたから。</p> <p>5 第五場面についての感想を書く。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。</p> <p>気持ちの変化の理由を読み取るためには、登場人物の行動や会話、気持ちを表す叙述に着目して、場面と場面を比べて考え方の違いを読み取ったり、気持ちと性格を関係付けたりすればよい。</p>	↓ 15	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを再構築させるために、話し合いの中で出てきた「考え方の変化」「性格」等の中から学習課題のまとめとして適切なものを判断させ、感想カードを記述させる。 本時の課題を解決するために活用した視点や思考方法の有効性を実感させるために、板書や自身のノートに着目させ、「どのようにして、課題を解決していったのか。」と問い、自身の学びを振り返らせる。